

次の一步を踏み出すための1年に

－令和7年度当初にあたって－

新潟県上越市では、観測史上初めての3月中の夏日を記録しました。温暖化の影響はここまで進んでいるのか、と危惧したり落胆したり、様々な気持ちが入り混じりました。しかし、4月1日からの数日の冷え込みは、先月の降雪を思わせるほどでした。これも「三寒四温」、季節の変わり目だからなのでしょう。

一方で、ソメイヨシノをはじめとする多くの「春の便り」は私共を楽しませ、そして期待に胸躍らせてくれます。これから子供たちと「春を探す」活動が楽しみです。

保護者の皆様並びに御家族の皆様、御子様の御入学・御進級、誠におめでとうございます。

新入生45人お迎えし、全校349人の子供たちと令和7年度を始めることをありがとうございます。

さて、昨年度は、事あるごとに「開校30周年」と申し上げてまいりました。記念式典をはじめとし、子供たちの活躍の場が多く設定されました。そこには、単に子供たちが表現する・あるいは活躍するだけでなく、「平素」があることを確認できました。学校の特色や歴史、自然や諸施設を中心とした地域の環境、そして自ら参画することにつながる地域社会への働きかけ、という内容は、平素の学習の積み重ねによるものです。しつこくなりますが、一朝一夕にはできないことであります。

ここには、やはり平素から教職員が目指している、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく「探究的な学び」があります。子供たちが「問い」を確認し、これを解決するために調べ、さらなる「問い」を追い求めたり得た知識や情報を実際に試したりする学習活動を強く意識してきた成果の一端と捉えています。

特に、地域との関わりは今まで以上に深くなりました。年度末には3月に旅立って行った6年生が諏訪第三公園でラジオ体操を行いました。地域の方々をお招きし、一緒に過ごしていただく時間を設定しました。多くの方々の参加があり、改めて地域の大切さを感じることができました。私事で恐縮ですが、先日、地域社会に求められている姿の一つは「living together」であること、またそこに生まれる「共通感覚」であることを、建築家 山本理顕さんの御講演から学びました。山本さんのお話を具体化し、その意味を確認できたのは、まさしくこの卒業生の活動でありました。ここに地域の皆様に改めて感謝を申し上げるとともに、わずかかもしれませんが、一学校現場からこうして地域と関わり、さらには地域に問える有難さを感じているところです。さらに生意気を申し上げれば、これが「諏訪」であり、「諏訪小学校」である、と捉えています。皆様はどうお考えいただけるのでしょうか。

いずれにせよ、問われているのは「平素」つまり日々の積み重ねです。派手さはなくても、地道に、そして子供たちが楽しく学校に登校するために、教職員一同努力をしております。

皆様には、改めまして本校の教育活動に御理解と御協力を賜りたく、お願い申し上げます。

令和7年4月7日

多摩市立諏訪小学校

校長 齋藤幸之介